STROKE LAB / ASSESSMENT WORKSHEET

改訂水飲みテスト｜MWST

A｜冷水3 mL・反応の観察・最低点の採用

氏名／ID：_____ 評価日：_____ 評価者：_____

実施手順

1 嚥下評価に習熟した医療職が実施。口腔ケア後に覚醒・呼吸・姿勢を確認し、必要時に対応できる環境を整える。

2 冷水3 mLを口腔底に入れて嚥下を促す。舌の上から咽頭へ流し込まない。嚥下・呼吸・むせ・声質を観察する。

3 4点の条件を満たす場合、追加の空嚥下を30秒以内に2回できるか確認する。4点以上なら水3 mLの試行をさらに最大2回行い、最低点を採用。3点以下で追加試行を止める。

評価・記録

点	判定の内容
1	嚥下が起こらず、むせまたは呼吸切迫を認める
2	嚥下は起こるが、呼吸が切迫する
3	嚥下・呼吸は保たれるが、むせまたは湿った嗄声がある
4	嚥下・呼吸が保たれ、むせがない
5	4点の条件に加え、30秒以内に2回の反復嚥下ができる

試行1：____点 試行2：____点 試行3：____点
最終（最低）評点：____点／判定不能。3点以下は追加評価へ。4〜5点も誤嚥を除外しない。

実施条件・症状／標準手順から変更したこと

出典・版の確認

日本摂食嚥下リハ学会：評価2019（p25〜26） ↗

日本集中治療医学会：J-ReCIP 2023／Table 4-2 ↗

測定手順・評価要素を出典に基づき独自に整理した記録用紙です。メーカー・学会の公式様式ではありません。

改訂水飲みテスト｜MWST

B｜追加の臨床記録 ― 評価本体の得点には加えません。

氏名／ID：_____ 評価日：_____ 評価者：_____

01 結果と生活場面をつなぐ

水の量・温度・粘度・姿勢と症状の出現時点を残します。標準の冷水を変更した場合は修正条件と明記します。

本人が困っている具体的な場面／本人・家族の言葉

検査で観察した事実／生活で確かめること

02 支援を一つ試す

記入例（架空）：5点、3点となり追加を終了。2試行目の湿性嗄声を共有し、VF・VE等の適応と当面の食事対応を相談する。

目標と、試す支援・環境・介助条件

実施日・場面	本人の行動・結果	必要な援助・負担

03 再評価

前回：_____ 今回：_____ 条件の違い：_____

次回確認すること・担当者・予定日

追加観察はSTROKE LAB独自欄です。検査の得点と、生活で実際にできたことを分けて共有します。